

令和3年度 群馬県小学校英語部会研究協議会

令和3年度館林市の取組

館林市教育委員会

2021年度 館林市英語教育推進計画

館林市教育大綱

<施策目的>

- (1) 自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまち
- (4) 地域の歴史や伝統、芸術や文化に誇りを持ち、魅力ある文化を育む、心豊かに暮らせるまち

<重点的な取組>

「確かな学力と豊かな心を育む教育の推進」

- 3 確かな学力の向上
 - ④英語教育の推進
実践的に英語でコミュニケーションを図る力を育成するために、小・中学校間の円滑な接続を図り、英語教育の充実を推進します。
- 4 豊かな心の育成
 - ④自然を大切に作る心の育成
郷土の魅力である日本遺産「里沼」を活用した、自然に親しむ体験的な学習を推進します。

- ・小中の円滑な接続とICT活用による授業改善の実践研究と普及
- ・ALTとふれあい、英語で郷土の魅力を伝える場や機会の拡充

目指す児童生徒像

- ・英語が好き。英語が楽しい。人と関わり合あうことを楽しむ子。
- ・間違いをおそれず、英語でコミュニケーションを図ることができる子。
- ・館林市の魅力を知り、里沼文化などを英語で伝えることができる子。

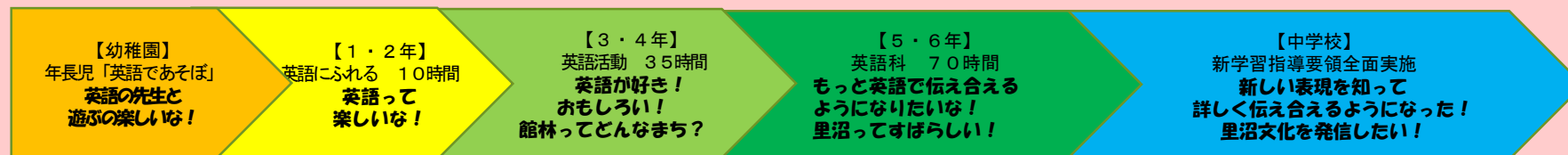
実態・願い



- ・英語を好きな児童が減少傾向にある。(小)
- ・館林に愛着をもってほしい。(小・中)
- ・英語活動・英語科の指導に差が見られる。(小・中)
- ・小中学校9年間を通したコミュニケーション力の育成が図られていない。(小・中)
- ・英語の授業を英語で行わなければならない。(中)

課題

- ◆ 新学習指導要領を踏まえ、小中間の円滑な接続を図るとともに、ICTを活用した授業改善を実践し、教師の指導力向上を図る必要がある。
- ◆ 児童生徒が体験を通して英語でコミュニケーションを図る楽しさを実感できる機会や郷土の魅力を発信する場が少ない。



小中連携のイメージ

【2021 重点目標】

- ① コミュニケーション力向上のために、小中学校間の円滑な接続を図るとともに、ICTを活用した授業改善を推進します。
- ② 国際的視野をもちつつ、郷土の魅力を英語で発信できる児童生徒を育成するために、ALTとのふれあいの場や機会を積極的に設定します。

<英語教育推進プロジェクト>

- ・教育研究所プロジェクトチームによる実践研究と普及
- ・郷土の魅力を学ぶための教材作成
- ・定期的な学校訪問による指導・助言
- ・市提案授業公開（多々良中）



<館林版「英語村」プロジェクト>

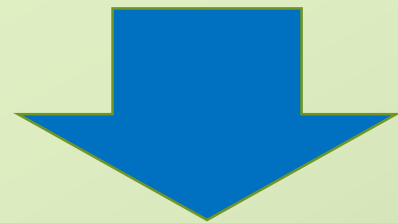
連携校 第四小学校

- ・英語ルームの整備（常設型）
- ・複数のALTによる学校訪問 「All English Day」の実施（訪問型）
- ・ALTとの交流イベント「英語村の夏休み」等の開催（イベント型）
- ・英検チャレンジ（希望制） ※英検助成が始まります。



2021 年度重点目標①

コミュニケーション力向上のために、
小中学校間の円滑な接続を図るとともに、
ICTを活用した授業改善を推進します。



英語教育推進プロジェクト

英語教育推進プロジェクト

○小中連携及び授業改善に関わる主な取組

- ・ 教育研究所プロジェクトチームによる実践研究
- ・ 小中合同英語主任会議の開催（年2回）
- ・ 市小中合同提案授業公開（多々良中学校）
 - …小中合同で検討を行った指導案を元に、授業公開・研究会を行う。
※新型コロナ感染防止対策のため、縮小開催となりました。
- ・ 群馬県小学校英語部会研究協議会 研究授業（第七小学校）
- ・ 英語教育実施状況調査（毎学期）
 - …小中共通の10の視点で各学期を振り返り、目指す方向性を確認し、授業改善に生かす。

ICTを活用した授業実践例紹介

第八小学校 英語専科 鯉沼教諭による実践

○学 年：第6学年

○单元名：Unit 2 Welcome to Japan

「ALTに群馬県の紹介をしよう」

○活用したICT：ロイロノート



ICTを活用した授業実践例紹介

○ICT活用のポイント

- ・「群馬県のおすすめの場所や、そこでできること」についてペアで紹介する練習をした後、各自で動画を撮影し、提出した。
- ・教師が内容をチェックし、模範になる児童を紹介したことで、他の児童のよいところを自分の紹介に反映させることができた。
- ・動画を中間評価に活用したことで、児童は自分の学びを振り返り易くなり、教師は次時へのフォローアップにつなげ、評価にも生かすことができた。



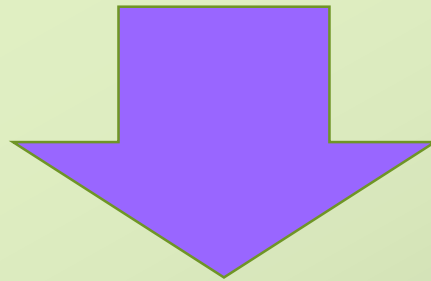
英語教育推進プロジェクトのまとめ

◇主な成果

- ICTの活用が進んだことにより
- 一人一台端末で個別支援が充実し、指導の改善が図られている。
- 教材の提示やよいモデルの共有化がしやすくなり、児童生徒の言語活動の時間が増えた。

◆主な課題

- コミュニケーション力向上のための効果的なICT活用方法
- 共通の目的をもった小中連携の推進
- 新学習指導要領に基づく評価の視点での授業改善



★これからの取組の方向性

- 効果的にICT活用を図るための土台となる単元構想・評価計画の研究
- 本市の英語教育に携わる教師の指導力向上や情報共有のためのサイトの立ち上げ

2021 年度重点目標②

国際的視野をもち、郷土の魅力を
英語で発信できる児童生徒を育成するために、
ALTとのふれあいの場や機会を積極的に設定します。



館林版「英語村」プロジェクト

館林版「英語村」プロジェクトとは…

目的：積極的に英語でコミュニケーションを図る力、異文化を理解し、相手のことを思いやって伝え合う力、自分で思考・判断・表現し、行動する力の育成を図ること



教育課程内で行う英語の授業と連動しつつ、館林版「英語村」プロジェクトでは、4つの柱となるプログラムで、主に教育課程外でALTとの交流を豊かに体験し、実践的コミュニケーションを図る場や機会を提供する。

館林版「英語村」プロジェクト 4つの柱について

- A 校内にENGLISH VILLAGEを整備し実施するプログラム（通年常設型）
- B 複数のALTによる学校訪問におけるプログラム（訪問型）
- C 夏季休業中のALTとの交流イベントプログラム（イベント型）
- D オンライン英会話プログラム（英検対策）

A 校内にENGLISH VILLAGEを整備し、 実施するプログラム（通年常設型）

- 各校で英語ルーム等を「英語村／ENGLISH VILLAGE」として環境整備する。
- 自校のALTと簡単な英会話、ゲーム、読み聞かせなどのイベントを行い、子ども達にとって身近にあって、英語を楽しみながら、ALTと交流を図る場と機会を提供する。

A 校内にENGLISH VILLAGEを整備し、 実施するプログラム（通年常設型）

★実践紹介

○英語村 キャラクターコンテスト

「英語村」をスタートするにあたり、児童生徒が親しみをもてるようにするために、自分たちの英語村のキャラクターを考案する企画

【各校で考案されたキャラクター】



A 校内にENGLISH VILLAGEを整備し、 実施するプログラム（通年常設型）

★実践紹介

○英語村校内イベント

「英語村の昼休み」として、子ども達が自由に集い、絵本の読み聞かせやゲーム、季節のクラフト作りなどをALTと楽しむ。



B 複数のALTによる学校訪問における プログラム（訪問型、年2回予定）

- 4名から10名のALTが各学校を訪問する日を「All English Day」とし、教室や廊下での挨拶、給食時の校内放送など全て英語で行うプログラム。

B 複数のALTによる学校訪問における プログラム（訪問型、年2回予定）

<小学校> ※第1回は7月に実施

子ども達はそれぞれのALTのブースを巡り、ALTが用意した母国紹介やクイズやゲームなどに挑戦し、英語村パスポートにポイントを集めながら、ALTとのふれあいを楽しんだ。



B 複数のALTによる学校訪問におけるプログラム（訪問型、年2回予定）

< 中学校 > ※第1回は7月に実施

中学校では、学校長の英語による放送でAll English Dayが始まる。

授業ではALTによるGoogle Earthを使った自国紹介を聞いて、バーチャル旅行を楽しんだり、全クラス対抗クイズに挑戦したりした。



C 夏季休業中のALTとの 交流イベントプログラム（イベント型）

- 学校の枠を越え、同世代の仲間と出会い、ALTとの交流体験を通して、英語への興味関心や英語学習の意欲を高める場を提供するプログラム。

C 夏季休業中のALTとの 交流イベントプログラム（イベント型）

★実践紹介 ※小学生対象は7月30日に実施。8月に予定していた中学生の部は12月に延期。

○英語村の夏休み（参加希望の小学生対象）

各校から集まった児童がチームを組んで、ALTによるミッションに挑戦し、ポイントを集める。そして、最後に、集めたポイントを使って、館林産の夏野菜を実際に英語で買い物し、お土産にして持ち帰った。

参加者アンケート
による総合満足度
96.2%



D オンライン英会話プログラム (英検対策、年3回実施予定)

- オンラインによるネイティブスピーカーと一対一で行う英語検定二次試験対策の模擬練習を通して、英会話力向上のための機会を提供するプログラム。

D オンライン英会話プログラム (英検対策、年3回実施予定)

★実践紹介 ※第1回は6月、第2回は10月に実施。

○英語村の英検対策

市内中学校に在籍で令和3年度第1回英語検定3級以上を受検した生徒を対象に希望者を募集し、一人1回20分程度で最大5回のレッスンを無料で行う。

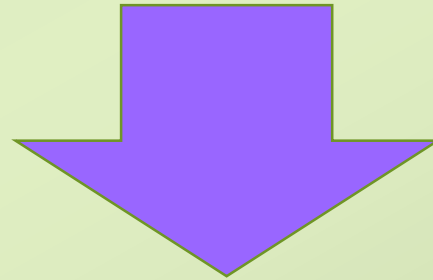
館林版英語村プロジェクトのまとめ

◇主な成果

- 各プログラムを通して、英語の授業以外の場でも、英語を使って、ALTと楽しそうにふれあう子ども達の笑顔がみられるようになった。

◆主な課題

- 各校のENGLISH VILLAGEの取組をさらに充実させる必要がある
- 各プログラムの実施・運営で混乱を生じるケースがあった。



★これからの取組の方向性

- 子どもの思い、保護者の期待や要望、教師の願いを踏まえたプログラム内容の向上
- 各プログラムの円滑な実施・運営方法の改善
- 日本人教師とALTの共通理解を図り、協働を促進する働きかけ

おわりに

「子ども達に英語をもっと好きになって欲しい」という願いと「子ども達が英語を使う楽しさを身近で体験できるようにするにはどうしたらよいのだろうか」という問いを発端に、理想を求めて館林版英語村プロジェクトは始まったばかりである。

これまでに本市が取り組んできた授業改善や小中連携を中心とする「英語教育推進プロジェクト」と「館林版英語村プロジェクト」が両輪となって回り出したとき、本市が英語教育の推進を通して目指す「自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもを育てること」に近づけるのではないかと考える。

社会が急激に変化する大波の中、教育に関しても不易流行の課題は無限にあるが、今年度の取組を糧に、ひとつひとつ改善しながら、子ども達の未来のために、進んでいきたい。